

商店街名：稲武商工会【豊田市、平成 28 年度指定】

1 活性化モデル商店街の概要

●キャッチフレーズ

買い物・生活・コミュニティに対応できるまち稲武

◎商店街の将来ビジョン

【現状】

稲武地区の人口減少（5年で11.1%減少）、高齢化（高齢化率40.2%）が進行している。

【課題】

- ・店主の高齢化や後継者不足が進み、組合員数の減少が懸念される。
- ・時代にあう、あるいは魅力ある品揃えが困難となり商店の魅力が薄れ、客離れが進むことが懸念される。

【対策】

①生活者の利便性向上やコミュニティづくりに寄与する商店街

高齢者対策や地域行事、ボランティア活動に積極的に取り組む。

②地域に密着し、信頼される商店街

定期的に顧客と顔を合わせる仕組みをつくることで、既存顧客の離反を防止する。さらに住民の集まる場所にPRしに行くことで、新規顧客の開拓に繋げる。

③中山間商店街の活性化

中山間の商店街であり、買い物支援システムにより、農山村地域の再生・活性化に繋げる。

◎具体的に取組む事業内容

○いなぶのお買物配達便（28年度～32年度）

過疎化・高齢化が高まる中、商店街の生き残りをかけ、宅配事業を中心に、高齢者の買い物支援システムを推進する。

配達日：月曜～金曜（祝日除く）

注文方法：商工会または宅配商品取り扱い店舗へ電話注文

支払い：配達時に配達業者へ現金で支払い

2 活性化モデル商店街の実績・成果等

◎商店街の将来ビジョンの実績

- ・加盟店の高齢化により、免許を返納した事業主がその補完としてお買い物配達便を利用するケースがあった。
- ・一部の加盟店で、店舗周辺のエリアに自ら配達サービスを始める等、新たな取組みに繋がった。
- ・移動販売を視野に入れ、加盟事業者内で運営できるような仕組みづくりを行い、今後も継続できる事業に繋げることができた。

◎事業実績

○いなぶのお買い物配達便（H28年度～R2年度）

過疎化・高齢化が高まる中、商店街の生き残りをかけ、宅配事業を中心に、高齢者の買い物支援システムを推進した。

配達日：月曜～金曜（祝日除く）

注文方法：商工会または宅配商品取り扱い店舗へ電話注文

支払い：配達時に配達業者へ現金で支払い

◎事業の効果

- ・宅配、御用聞き、常備品箱設置、買い物バスの試行、集会所などでのPRを行った。また、名古屋大学の「たすけあいプロジェクト」と連携したPRを行い、知名度の向上に繋がった。
- ・この事業をきっかけとして、会員の入会が2件あった。
- ・利用者はリピーターが多く、住人の施設への入居などで全体の利用件数は減少してはいるが、稲武に移住してきた方からの利用など、新規顧客の獲得もできている。

◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

道の駅とタイアップし、普段道の駅で販売しているパンを地域住民へ配達した。コロナ禍で集客が難しい道の駅と連携することで、新しい生活様式へ対応することができた。この事業で道の駅が配達サービスを利用したお弁当のテスト販売を行い、地域住民の反応を見ることができた。その後店頭でのお弁当販売に繋がったことにより、近隣の飲食店でもテイクアウトへの参入が見られ、稲武地域全体として新たな取組に繋がった。

◎その他の成果

東京福祉大学名古屋校がソーシャルビジネスをテーマとした卒業論文作成のため訪問し、稲武の取組みを高く評価し他地域や海外でも実施できるかどうか等の視点から研究した。



(いなぶのお買い物配達便)